心のかけはし

出生 はじめましてすこやかに

赤ちゃん	性別	保護者	地区	出生日
久保田大貴（たいき）	男	幸　弘	榎　列	12月３日
遠藤　晋功（のぶかつ）	男	真　弘	北阿万	12月12日
谷間　詩音（しおん）	男	昭　太	賀　集	12月12日
鶏内菜々子（ななこ）	女	伸　二	京都府	12月12日
東良　真奈（まな）	女	弘	八　木	12月13日
末田　蒼真（そうま）	男	純　一	市	12月15日
炬口　颯馬（そうま）	男	吉　秀	市	12月15日
島田　智基（ともき）	男	完	市	12月16日
河野　海（かい）	男	繁	福　良	12月18日
庄野　硫稀（りゅうき）	男	真　隆	倭　文	12月18日
田村　華朋（かほ）	女	光	神　代	12月19日
樫木　遼馬（りょうま）	男	真　仁	神　代	12月20日
秦　暖貴（あつき）	男	伸　行	榎　列	12月21日
不動　拓海（たくみ）	男	英　二	広　田	12月22日
三宅　利空（りく）	男	栄　二	榎　列	12月22日
三宅　祥生（しょうせい）	男	洋　史	潮美台	12月23日
濱口　乃綾（のあ）	女	重　樹	松　帆	12月26日
神田　芹那（せりな）	女	敦　司	倭　文	12月26日
阿部　獅立（しりゅう）	男	政　之	鹿児島県	12月26日
原　蒼泉（あおい）	男	拓　生	福　良	12月27日
山野　愛依（あい）	女	元　久	倭　文	12月27日
木村　凜空（りく）	男	大	沼　島	12月28日
寺岡　幸哉（ゆきや）	男	智　行	松　帆	12月30日
奥野　悠斗（ゆうと）	男	直　樹	榎　列	12月31日
齊藤　瑠菜（るな）	女	幸　二	伊加利	１月１日
岡田　大翔（たいと）	男	健	榎　列	１月２日
樋口　龍慎（りゅうしん）	男	慎　司	榎　列	１月２日
長舩　夢空（のあ）	女	哲　士	福　良	１月２日
原　颯太（そうた）	男	護	市	１月３日
正木　大晟（たいせい）	男	雅　之	市	１月４日
入谷　恭輔（きょうすけ）	男	友　章	神　代	１月５日
小林　凜（りん）	女	貞　仁	八　木	１月６日
榎本　望来（みらい）	女	清　和	神　代	１月７日
片山　裕介（ゆうすけ）	男	治　幸	北阿万	１月８日
稲井　翼（つばさ）	男	良　典	市	１月11日
川渕　迅人（はやと）	男	健　右	市	１月11日
冨本　陽菜（ひな）	女	紘　之	松　帆	１月11日
冨士元真紅（まあく）	男	秀　樹	榎　列	１月11日
前川　洸稀（こうき）	男	浩　一	神　代	１月13日

●平成18年１月19日までの受付分（敬称略）
※この欄への掲載を希望しない人は、届け出のときに窓口へお申し出ください。

結婚 いつまでもお幸せに

夫氏名（地区）	妻氏名（地区）	届出日
柏木　一樹（福　良）	福原　則子（福　良）	12月25日
谷池　一真（津　井）	長尾　亜希（福　良）	１月１日
村上　明良（阿　万）	打越　麻里（淡路市）	１月３日
増見　貴志（広　田）	森西香永子（阿　万）	１月８日
岩崎　文哉（愛知県）	野上　順子（淡路市）	１月８日
西村　忠幸（洲本市）	橋倉　視保（松　帆）	１月11日
小林　健太（福　良）	桐原　佳江（福　良）	１月11日
宗田　英史（福　良）	池田ますみ（福　良）	１月11日
棚田　均司（倭　文）	多田多津子（洲本市）	１月11日
江本　辰典（阿　万）	中西　京子（福　良）	１月15日
坂口　辰也（榎　列）	西村かおり（榎　列）	１月17日

まちの動き

●人　口 54,231人（前月比−51人）
（男）　26,179人（前月比−24人）
（女）　28,052人（前月比−27人）
●世帯数 18,025世帯（前月比−19世帯）
※平成18年1月1日現在

子育て広場

【開設時間】午前9時〜午後1時

■南あわじ市子育て学習センター
みどり（☎44-3008）開設日：月・火・水・金
せいだん（☎37-3028）開設日：月・火・木・金
みはら（☎42-7703）開設日：火・水・木・金
なんだん（☎50-3048）開設日：月・火・水・金

▼凧あげ（子育て学習センターみはら）

子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる。
とげとげしした家庭で育つ子どもは乱暴になる。
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる・・・『子は親の鏡』ドロシー・ローノルト著より。
子育ては不安だらけと言うお母さんの声をよく耳にします。でも、
励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる。
広い心で接すれば、キレる子どもにはならない。
誉めてあげれば、子どもは明るい子に育つ。とも書かれています。短い言葉ですが真理を付いているのではないでしょうか。
テレビ、ビデオ、ゲームなどの影響を恐れる前に、まず自分自身と子どもとの接し方を見つめなおしてみましょう。そして不安がらずに、家庭のルールを決めて、ゆっくりと子どもの成長を楽しみましょう。
（子育て学習センターみはら　沼田陽子）

ハートブリッジ・メンバーズ

地域のおじさん・おばさん運動

〜「わたしの子ども」から「わたしたちの子どもたち」へ〜

青少年育成センター ☎37−3026

道徳・倫理が国を救う

幼児教育を一年ないし二年義務化する案が文科省で検討されていることが元日に新聞報道されました。学力低下やいじめ、不登校、学級崩壊などの問題を踏まえての思惑があるのでしょうか。賛否は別にして、子どもにどのような影響を及ぼすのだろうかと、たいへん気になるところです。
制度を改革することも大切でありますが、教育は制度ではなく中身が問題です。子どもたちが人間として何を学び、いかに生きようとしていくかにかかっています。
いま、中国では、儒教を徳目として取り戻さないと国家は衰亡していくという危機感に立ち、儒教復興に力を入れているそうです。小学校で論語を学ぶ学校が増えていると言われています。儒教とは、孔子を祖とする中国古来の政治・道徳の教えです。

心棒のゆがんだ扇風機

日本は行き着くところまで行かないと、どうにもならないのでしょうか。それでは遅すぎます。取り返しのつかなくなってからでは、どうにもなりません。
扇風機が右に左に首を振り、回り続け、心地よい風を送ってくれるのは心棒がしっかりしているからです。心棒がゆがんでいては、子どももまっとうに育ちません。
ウソ、偽物、間違いだらけの中で子どもたちは手本を失い、何を信じてよいか分からないでいます。このぐじゃぐじゃになった日本の現状を立て直すために必要なのは、ちゃんとした心棒を育てるための道徳教育でしかありません。モラルハザードが元凶ですから。

米百俵を換金して

幕末、長岡藩に小林虎三郎という人物がいました。薩長を中心とする倒幕派勢力との戦いをさけることに失敗し戦いに敗れた長岡藩は、取り潰しは免れたものの減石され貧乏のどん底にあえいでいました。見るに見かねた分家にあたる三根山藩が米百俵を長岡藩に贈ったのは明治三年の春のことです。藩の復興の原動力を教育に求めていた虎三郎は、その米百俵を換金して学校を建て、子どもたちを立派な人間に仕上げたいと命を賭けたのです。『学校をつくり人間を育成することこそ、長岡藩を復興させ、ひいては日本を根底からつくり直す政治の最重要事なのだ』と。小林虎三郎が提起した「米百俵」問題は、まさに現代への問題提起なのです。

人がつながる社会こそ

今は亡き渓神光玄先生（阿万神宮寺住職）の講演で学んだこと、それは「と」の世界ではなく、「の」の世界を取り戻すことでありました。「の」は、二つのものが一つになる一体感、信頼感の世界です。それに対し、「と」の世界は、二元的すなわち、二つの異なったもの、二つの場所また別々の世界であり、それは対立的世界を指しています。
戦前の日本は「の」の時代でした。すなわち、先生の生徒、生徒の先生、親の子、子の親、地域の子どもたち、子どもたちの地域、という関係だったのです。ところが、戦後の六十年間は、これらの関係を、先生と生徒、親と子、地域と子どもたち、という「と」の時代にしてしまったのではないでしょうか。それが、少年犯罪や子どもの諸問題にもつながっていると考えられます。
支え、支えられるという人と人のつながりを回復し、「の」の世界である、人々が強い信頼関係や規範、ネットワークで結ばれた社会をみんなで築いていく努力こそ、子どもたちを守り育てていく力です。
「ハート・ブリッジ・メンバーズ運動」すなわち「地域のおじさん・おばさん運動」は、この「の」の世界の回復を目指しているのです。